

自分の好きに素直でいたい

中 一

「就活セクシズム」とは何か知っていますか。

「セクシズム」とは、性別によって差別や偏見をもつことで、「就活セクシズム」は、就活中に性によって固定観念を押し付けられることです。

みなさん、一度パソコンやスマートフォンなどで「就活 服装」と調べてみてください。検索結果の多くが男性向けの服と女性向けの服など、男女別で服装を紹介しています。私は、女性はスカートの方が好印象、男性はジャケットの一番下のボタンを外しておくなど、細かいところまで「マナー」として決められていることにとっても驚きました。今の世の中には、「差別をなくすため」「世界中の人々が平等であるため」の活動がたくさんあります。しかし、性別についてはまだまだ理解が足りず、もっと世界全体で考えていくべきだと思います。

私自身、昔、性別に悩んだことがあります。小学校中学年のとき、私は消防士になりたい、と

いう夢をもっていました。火災があつたり、救急の依頼があつたりすると緊急で助けに行く、その姿を見て「とても格好いい」と憧れをもちました。そして「私も消防士になり、人々を救いたい」と感じていました。しかし、その思いを友達に話してみると、

「男の人がやる仕事だから、女の人は無理なんじゃない。」

と言われました。そのとき、私はとても傷つきました。消防士になりたい、とワクワクしていた心が一瞬で溶けてしまったような感覚を、今でも覚えています。

確かに、全国的に見ても女性消防士はまだまだ少なく、「男性の仕事」というイメージが根付いてしまっているのが現状です。しかし、女性消防士ならではの親しみやすさは多くの住民に安心感を与えられると私は思います。

私は疑問をもちました。

性別で自分の「夢」自分の「好き」を諦めなければいけないのでしょうか。

「男のくせに」「女のくせに」その心無い言葉に傷つく人はどれだけいるのでしょうか。そうい

った固定観念に違和感をもち、声をあげている人がいます。市民団体、「SSS」(Smash Shu-katsu Sexism)のメンバーである水野優望さんです。水野さんは、戸籍上は女性として生まれましたが、男性でも女性でもないXジェンダーです。水野さんは就職活動中に「男性らしさ」「女性らしさ」を押し付けられることに恐怖や違和感があったそうです。

「食事のときに同級生から就活の話が出るだけでパニックになって、頭が真っ白になって帰りたくなって、就活の女性らしさ、男性らしさに当てはまらない自分がおかしいんだとか、自分が間違っているとか、自分が狂っているから生きていてはいけないんだみたいな感じで思い詰めることも多かったです。」

水野さんの言葉です。性別や国籍など、自分の生まれてきた環境によって差別するのは絶対にいけないことです。世界に二つとない、かけがえのない私たちの「個性」を尊重し、認め合うことが大切なのではないでしょうか。

現在、長い歴史をもつ男女不平等は、世界的な取り組みにより少しずつ減ってきていますが、国

によって進み具合がまったく違ってきます。その進み具合は各国の男女格差を数値化した、ジェンダーギャップ指数を見ると一目瞭然です。二〇二二年、日本のジェンダーギャップ指数は0・650で、あまり進んでいません。「1」に近い数値であるほど男女格差が小さいので、約四割も男女格差を改善できていない、ということなんです。一方、指数が0・908と、世界の中でジェンダーギャップ指数が一位のアイスランドでは、一九八〇年に世界初の民主的に選出された女性大統領が誕生しました。それ以降、より格差は縮まっており、男性も女性も生きやすい社会になりました。しかし実は、アイスランドは以前まで男性中心の社会でした。そんな中で声をあげる女性の存在があったからこそ、現在の姿があるとされています。日本でも男女不平等をもっと深刻な問題として考えていくべきであり、今の日本を変えていかなければいけません。私自身、男女差別で寂しい思いを経験したからこそ、ジェンダー平等について理解していき、性による先入観に左右されず、自分の考えを貫いていき、本当の夢を探していきたいです。そして、もし人に差別的な言葉を言っていた

り、それで悲しい思いをしている人を見たりしたら、自分から積極的に、その人に声をかけたいです。

自分から率先して行動し、まずは身近な「性差別」をなくしていくこと。性にとらわれず、私らしい生き方を楽しんでいくこと。自分のできることをやっていき、まずは自分自身から変わっていくことが、私のこれからの目標です。